

# 構造例示型(事例4) 常時逆洗運転による水質改善事例

## 【槽内状況】



通常の調整は汚泥移送停止。

事例番号	4		浄化槽メーカー	㈱ハマネツ		
処理方式	嫌気ろ床接触ばっ気		浄化槽型式	KGN3		
法定検査日	平成 24 年 9 月 13 日		人槽	10 人槽	使用人員	8 人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽／沈殿槽	放流水	
スカム厚(cm)	3	1未満	—	0	透視度	16 度
堆積汚泥厚(cm)	15	31	4	3	DO	1.8 mg/ℓ
透視度(度)	8	11	13		pH	7.4

法定検査からの 状況連絡・指示内容	槽内状況	1次処理2室以降、堆積汚泥厚が多くなっている。 2次処理に生物膜の付着が少なく、底部に汚泥が4cm堆積している。 汚泥移送装置は停止。 空気逃がしバルブ1/2回転(開) 日平均汚水量 1.96m <sup>3</sup> /日 採水時間14:15				
	対策	2次処理の底部汚泥を移送する。 空気逃がし調整で効果がなかった為、常時逆洗運転に切替える。				
保守点検からの措置 返信内容	9月18日	指示通り調整する。	透視度	16 度		
			DO	2.1 mg/ℓ		
			pH	7.5		
	10月2日	汚泥移送を実施する。	透視度	21 度		
			DO	2.5 mg/ℓ		
			pH	7.6		
	10月16日	2次処理槽内の透視度が20度まで回復する。 生物膜の生成を目的に通常運転に戻す。 空気逃がしバルブ全閉にする。	透視度	26 度		
			DO	3.1 mg/ℓ		
			pH	7.5		
	10月30日	透視度が回復する。 生物膜の付着を確認する。 次回保守点検まで、通常運転で様子を見る。	透視度	37 度		
			DO	3.3 mg/ℓ		
			pH	7.4		

## 【ポイント】



2次処理槽：逆洗前のばっ気液  
(白濁し透視度13度)

2次処理槽：逆洗後のばっ気液  
(底部汚泥の巻き上がり)

左：逆洗前の状況  
右：逆洗後の状況